



学校だより

12月号
横浜市立桜台小学校
令和4年11月30日発行

言葉つむぐ心の距離

児童支援専任 大木 洋平

今年度より児童支援専任という立場になって全校の子ども達と関わることになり、年度当初は様々な学年の子どもたちの顔と名前がなかなか覚えられず苦労することもありましたが、1ヶ月、2ヶ月経つにつれて慣れてくるのと同時に、ある変化を感じました。それは、あいさつをする子どもがとて多くなっているということです。毎日西門や昇降口に立ち、安全な登校を見守りながら「おはようございます」とあいさつすることが私の1日の始まりです。4月は、小さな声であいさつをする子や無言でおじぎだけして通り過ぎる子どもたちも多かったのですが、徐々に目を見て、大きな声であいさつをしてくれるようになってきました。また、朝の様子で、子ども達一人ひとりの様子についても分かってきました。日々、担任の先生方と子ども達の様子について共有しながら、安心して楽しく学校に来られるよう、支えていきたいと思ひます。

コロナ禍での生活が続く中、学校行事が徐々に実施できるようになってきました。先日は、対策を講じながら3年ぶりに全校遠足が行われました。子どもたちにとって、学年の枠をこえてみんなで一つになって楽しめる活動となりました。コロナ禍の様々な制約がある中での生活は、子どもたちにとってもストレスのたまりやすい状況です。しかし、行事に向けて取り組む子ども達の活気あふれる姿を見て、みんなで一つの事に向かう大切さを改めて感じています。コロナ禍のため、マスクの着用やディスタンスをはかることが続いています。このように人との物理的な距離はとて、心と心の距離は近付けていけることを目指しています。そのためには、日頃の自分の言葉や態度を振り返ることが大切なのではないかと思ひます。自分の何気ない言動が相手にとってはどのような意味をもち、どのような気持ちにさせているのか考えると、それが変わってくるのではないのでしょうか。相手を思う優しさが言動となって表れ、温かい言動であふれた時、心と心の距離は近づき、本当の意味で安心した学校生活を送れるようになるのではないかと思ひます。子どもたちの思いが素敵な姿となって表れるような活動を今後も模索し、日々の指導に努めていきたいと思ひます。

12月は、「横浜市いじめ防止啓発月間」です。子ども達の健全育成に向けて取り組んでいます。この期間に合わせて、12月の初めに人権週間を設けて、子どもたち一人ひとりが人権について考える時間を作っています。子どもたちは日々、学校でたくさんの友達や教職員と関わりながら成長しています。考え方や性格など、自分と全く同じ人は誰一人としていません。それぞれがあらゆる考えをもち、様々な環境の中で生きています。ですが、人は自分と異なるものに対してネガティブな思いをもつ傾向があると心理学で言われているそうです。だからこそ、互いの違いやよさを認め合い、自分の当たり前が相手の当たり前ではない、人の数だけ考え方、物事の捉え方が存在することに気付くことのできる心を育ててほしいと思ひます。一人ひとりが自分のよいところ、苦手なところを認め、さらに友達との違いを認め合い、尊重し合える、そんな「これからの社会」を作る人になってほしいと願っています。そのために、自分の思いや考えをしっかりと相手に伝えられるように、豊かな言葉の力を育てていきたいと思ひます。ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。